

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570812461		
法人名	有限会社 ふぁみりい		
事業所名	グループホーム ふぁみりい		
所在地	秋田県大仙市四ツ屋字上古道199-1		
自己評価作成日	平成23年3月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation">www.akita-longlife.net/evaluation</a>
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田市東通3丁目9-31		
訪問調査日	平成23年3月14日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・共同生活において、入居者も職員もお互いに良い関係が保てるように、心豊かでいられるようにたのしみを作っている。多様な外出を試み、ストレスの軽減を図り素敵な楽しい時間を作り、皆の良い笑顔を引き出せるようにしている。(楽しい時間を作る事が出来るよう職員全員一生懸命取り組んでいる)

・入居者個々の楽しみや習慣、趣味を大切に継続できるように取り組んでいる。

・自立支援を基本に「できる事は自分で」を念頭におき 時間がかかっても自分でできるように関わっている。自立の疎外因子とならないように気をつけている。

・健康管理も異変に気づいたらすぐ受診し主治医の指示をもらい対応している。(本人・家族・職員の安心へつながる)

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議を通じてホームの取り組み状況が伝えられて近隣の周知が図られ、地域住民との交流が盛んに行われています。職員は本人の意向に沿ったケアを心がけ、自由に自分らしく暮らしていけるよう利用者を見守り、また、医療連携による協力体制も整い、利用者、家族にとって安心して生活できるよう支援されています。ショートステイに隣接したホームから道路を隔てた向かい側に新築し、引っ越しされたばかりで、これを機に帳票類を整備して記録方法等を見直し、更なるサービスの質の向上に繋げていけるよう職員全員で取り組むことを検討されており、今後が期待されます。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者が心地良く暮らせるように、又家族の思いも反映しながら入居者と良い関係を保っていけるよう日々取り組んでいる。	地域との連携を踏まえた事業所理念は事務所内、職員控え室にも掲示されて職員はいつでも目にすることができ、理念の共有を図って実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベント等の時又は施設のイベント等に参加・招待して付き合っている。近所のおばあちゃんからは、草むしりをしてもらいホームにも気軽に遊びにきてもらっている。また野菜を持ってきてくれる方もいる。	近隣の保育園、小学校との相互交流や、地域ぐるみの防災訓練に参加することも予定されており、同一法人のショートステイも含めた交流ができるよう取り組まれています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	「認知症何でも相談所」ののぼりを掲示して窓口を開放している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム側の発言が多いが、地域の保育園や小学校との交流を行った。	会議には家族、地域住民、協力医も参加して、2ヶ月に1回定期的に開催されています。ホームの地域での取り組み状況や前回の会議での課題について報告されている他、出された意見が運営に反映されるよう取り組まれています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	その都度ごとに協力してもらっている。	運営推進会議での意見交換や、ホームの行事の協力を得る等連携しながら利用者支援に繋げています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修・講義等の参加を促している。	職員は身体拘束による弊害を理解し、日々注意し合いながら拘束のないケアに取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し虐待のないように、又虐待につながるような対応がないかどうか日頃から注意し対応している。緊張感がかけないようにも心がけている。		

グループホーム ふあみりい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の権利擁護事業のサービスを利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時説明させてもらっているが、状況に応じてその度理解してもらえるように説明させてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の不満や要望等は、内容に応じ主治医や居宅のケアマネに協力依頼し納得してもらうこともある。	運営推進会議で意見の引き出しに努め、面会時にも積極的に話を聞く機会をつくって運営に反映させる努力をされています。また、ご意見箱の記載用紙や設置場所を改め、利用しやすいように検討していく方針です。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会時、職員の要望や意見、提案を可能な限り反映できるようにしているが、力不足な点がある。	職員の気付きが運営に反映できるように、代表者は話しやすい雰囲気づくりをされて、日頃から職員とコミュニケーションを図っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勉強会時、職員の要望や意見、提案を可能な限り反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特に認知症に関する研修等に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの連絡協議会等を通じネットワークを構築している。		

グループホーム ふぁみりい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時や見学時、家族や状況を知る方から聞き取り、ホームでの生活に早く馴染み潤滑に生活できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時、事情をよく聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者に寄り添い、相互的に支えあっている。1人ひとりを理解し、笑顔と優しい雰囲気ですやかに接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の状況もある程度は把握しつつ、入居者の状態も伝え、理解してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会時、一緒の外出をし馴染みの人と会ったりしている。また美容院等も馴染みの所へ行けるように支援している。	日用品の買物にスーパーやコンビニを利用することも日常的に行われ、家族の協力も得ながら、利用者の希望や生活習慣を尊重した支援が行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者同志の関係を把握し、孤立せずその状況に応じて関わられるよう努めている。		

グループホーム ふあみりい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時折、話しを聞いてもらいたく電話をくれる家族がおり、次の所へ行き、落ち着くまではなしを聞いて対応した。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ちになり一人ひとりの状態に応じて強要する事無く温かく見守る。	日々接する中で意向の把握に努めて情報を共有し、本人本位の生活が送れるよう支援されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員も家族から聞いたことなどの情報を皆で共有できるように情報交換をしている。入居時のアセスメント時、なるべく聞き取れるようにしているが、家族もわからない事が多い時もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の情報交換も密にし、状態に応じ臨機応変に対応するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員はもちろん、家族・主治医・訪問看護の看護師等に相談しアイデアをもらい良く過ごせるように計画作成し、対応している。	担当職員の記録やミーティングでの情報を基にモニタリングを行い、利用者、家族の意向を確認して現状に即した介護計画が作成されています。今後、話し合いの場を設け、より情報の共有が計れるよう、記録方法の見直し等を検討する予定です。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や管理日誌への記録と共に毎日のミーティングにて情報の共有を図り介護計画にも反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

グループホーム ふあみりい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて協力をもらい支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターを初め、専門医、訪問看護との関係を築き、必要に応じて随時受診し、家族も本人も安心できるよう対応している。	これまで利用してきたかかりつけ医で受診されています。家族が受診介助できない場合は職員が介助し、その都度報告されて記録にも残しています。協力医との連携により緊急時の往診、歯科受診、薬局では薬を届けていただいております。利用者の健康に配慮した支援が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム看護師の指示をもらい対応し、又訪問看護の看護師とも相談対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	おこなっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・ホームの職員が本人の状態を把握でき不安を取り除き落ち着いて状況を受け入れられるように、精一杯関わることができるように主治医と家族との話し合いを元にもんなで同じ方向を見て対応している。	医療連携によって終末期ケアの体制を整えています。今後起こり得ることを想定し、対応方法を含めた話し合いを行い、方針を再確認することを検討しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践訓練はしておらず。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2回の消防署立ち会いの避難訓練を実施し、地域住民も参加して協力をしてもらっている	ショートステイと合同で夜間を想定した訓練が行われています。職員の意見を募り、事業所独自に計画して訓練回数を増やし、職員の不安を軽減できるよう取り組む予定です。	

グループホーム ふあみりい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねる声掛けや記録もしていない。	利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉かけで対応されていました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な状況でも「選ぶ」という「自己決定」を大事に支援している。自己決定できない入居者の中にはあるので、その時は本人が混乱しないように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて対応している。自分のペースや時間をうまく使える入居者には、あらかじめ、どのような行事があるのかせつめいしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	いつでも身だしなみが綺麗でいられるように支援している。服は、本人と一緒に買い物へ行き購入し、美容院も行きたい所へ行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者が一緒に行うよう心がけ、楽しい会話をしながらおこなっている、が、食事の為清潔にも配慮しなければならず、十分できない事も増えてきている。必ず感謝の気持ちを表現し、自信と意欲に繋げている。	清潔感に配慮が必要な下拵えは行われていませんが、配膳、下膳は利用者が手伝っています。献立や調理法を教えてもらうことで、食事が楽しみな時間となるよう工夫されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の病状や嗜好に応じ対応し、摂取量も把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアは徹底して行っている。困難な入居者に対しても歯科医のアドバイスを下に職員全員で取り組んでいる。口腔内に異常があれば、すぐ、歯科受診し対応している。		

グループホーム ふあみりい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握を行い、促しや誘導により失禁防止に努めている。また、失敗した場合でも尊厳を失うことなく配慮している。	利用者は自分でトイレで排泄しており、プライバシーに配慮した職員のさりげない見守りと確認が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜の多い食事の提供はしているが、便秘解消となるだけ運動となると困難な方が多い。個々にリンゴやヨーグルトを毎日食べて排便に気をつけている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	健康状態の把握をし、一人ひとりの状態に合わせてスムーズにいけるようタイミングをみて行っている。浴室からは歌声がよく聞こえてくる。	1日おきの入浴を基本に、利用者の体調に配慮して清潔保持されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠できるよう日中の過ごし方の工夫を行っている。また、認知症の進行によっても夜間不眠が出てくる為、専門医受診時報告し眠剤の検討も行い対応している。状態に応じて服用しない時もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	追加になって服用する薬については、副作用も説明し、状態の観察に努めている。全員が、どのような服薬をしているのか、すぐ分かるようにファイルにして対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	状態や特技に応じて役割持ち、職員と共に行っている。また、趣味や楽しみごとが出来よう支援している。気分転換も含め、外出に取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	外出や外気浴重視した対応をしている。1人で外出できる入居者には、外へ出ることを促し、希望によっては、買い物やドライブも行っている。	出かけることを楽しみにしている利用者が多く、近隣の散歩や買物は日常的に行われており、希望に応じた外出支援がされています。また、遠出する際には事前調査して安全確認が行われています。	

グループホーム ふぁみりい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に応じて対応している。また、預かり金の出納帳の記入も職員と一緒に残り残金がいくら分かるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	状態や状況に応じて連絡を取れるように対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を一番に心掛け臭いにも敏感に反応し、対応している。心地よく過ごせるように工夫や対応している。努めてあまりごちゃごちゃ飾らないようにしている。	新しいホームに引越されたばかりですが、間取りはほぼ同じに設計され、洗面台やトイレの場所についての混乱が当初は少しあったものの、現在は問題なく利用されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	それぞれの入居者がテレビの前のソファだったり好きな場所にいられるようになっている。共有部分では、譲りあったり座れない時もあるが入居者にまかせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物や好むものを家族に任せて空間を作ってもらっている。また、本人の状態に応じて、混乱のないよう物を減らしてもらった等の対応もしている。	ベッドや布団等使い慣れた物を持ち込んで、一人ひとりが生活しやすいように工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に応じて混乱、失敗を防ぎ自分の力で出来るよう工夫している。段差もなく手すりや部屋の戸も開けやすいようにしている。		